

生活の主体者をめざす技術・家庭科の学習

－「かかわり」を生かした衣服の着方－

和服の着装実習を行い、実際に体験した和服の着方や動作をもとに、普段着用している衣服の着方について考えさせる。グループ活動を中心とした学習を多く仕組み、自分ひとりでは気づかなかった考え方にふれさせることで、衣服と社会生活とのかかわりについての理解を深めさせるとともに、目的に応じた着用や他人に与える印象を考えた着方ができる生徒の育成をめざす。また、生徒同士のかかわりを活性化させるための支援のあり方についても研究を深めるためこの題材を設定し実践した。

1. 授業の構想

(1) 生徒の実態

研究を進めるにあたり、衣生活に関する事前アンケートを行った。その結果によると、ほとんどの生徒は和服を着たことがあるが、その多くが幼少時や行事での体験であり、日常的に和服に親しんでいるとはいえないことがわかった。また、和服が「好き」と回答した生徒よりも「あまり好きではない」と回答した生徒が若干多かった。これは、「動きにくい」「着方が難しい」というイメージが原因として考えられる。衣服を着るときには「自由にいろいろな服を着る」等、自分の好みを優先して衣服を選択し着用している傾向が見られることもわかった。

(2) めざす生徒の変容

和服に対して上記のイメージを抱いている生徒に対し、互いに助け合いながら浴衣を着るという体験活動を仕組むことは、自分たちで着られたという達成感にふれさせることができる。また、浴衣を着て動作をして感じたことをもとに、和服だけでなく普段着ている洋服の着方にルールがあるということに気づかせることができる。さらに、話し合い活動によって、多様な考え方にふれさせることで、自分だけでは気づくことのできなかつた様々な意見や考え方にふれることができ、自らの衣生活を見つめ直すきっかけとなる。それにより、TPOや他人に与える印象を意識して着ることができるようになる。そして、主体的に衣生活を送ろうとする生徒をはぐく

むことにつながる。

2. 授業実践

(1) 学習指導計画（4時間）

- 1 衣服のはたらき
- 2 浴衣の着装実習
- 3 衣服の着方
- 4 TPOに応じた着方の工夫

(2) 授業展開1 「浴衣の着装実習」(2/4時)

①主眼

- ・美しい着方を考えながら、友達と協力して浴衣を着ることができる。
- ・いろいろな動作をし、その気づきをまとめることで、和装での動作の特徴を理解することができる。

②手立ての具体

教師の指示や説明図をもとに、友達と協力しながら浴衣を着用させる。ほとんど着たことのない浴衣を、自分たちだけの手で着ることができたことで、自己効力感や自己有用感を与えることができる。

次に、浴衣を着用して様々な動作を二人一組で行い、互いに観察し意見を出しあって浴衣の着装における美しい着こなし方ができるようにさせる。浴衣を着慣れていない生徒にとっては難しい課題である。しかし、少しでもきれいに動作するための工夫を見つけて出させることで、考えあう場面を設定し生徒同士のかかわりを活性化させるようにした。この活動をとおして、「わかった・できた」「もっと知りたい・もっと考えてみたい」という生徒の興味・関心や意欲をひき

だすことができる。

③考察

着付けにかなり苦勞した生徒が多かったが、それだけ着終わったときには、多くの生徒が達成感を感じていた。



浴衣を着せ合う

「次の授業も浴衣で受けたい。」等と発言する生徒も見られ、浴衣への興味・関心が高まったといえる。



階段での上り下り

動作を行う活動では美しく着こなすためにはどうすればよいか、協力して考える姿が見られた。実際に浴衣を着て動作をすることにより、浴衣の着装での動作の特徴が体感できた生徒がほとんどであった。

(3) 授業展開2 「衣服の着方」(3/4時)

①主眼

浴衣の着装をとおして、日常生活における衣服の着方について考え、TPOや他人に与える印象を考えて衣服を着ることの大切さに気づくことができる。

②手立ての具体

前時の着装実習で浴衣を着るときや動作をするときに感じたこと、気をつけたことをもとに意見交換させる。このことは、グループ内でのかかわりを活性化させ、自分では発見できなかった多くの気づきにふれさせることができる。

次に、和服における着方や動作における注意点は和服だけにいえることかという視点を投げかけて話し合わせる。日常生活での様々なシーンが思い起こせるような助言を行いながら、班活動がスムーズに進むように支援する。友達と意見交換させることで、多様な考え方を共有させることができ、「他者とかかわる力」がはぐくめると考える。さらに、日常生活

における衣服の着方を考えさせることは、実際の生活での実践への意欲につながる。

③考察

班活動では活発な意見交換が行われた。他の意見を認め考えあうことができ、かかわりを活性化させることができた。和服と洋服の着用時の注意点をまとめさせた中から共通点を挙げさせることで、話し合い活動もスムーズに進み、洋服には特別な着方のルールはないと思っていた生徒も、無意識のうちに注意して洋服を着用していることに気づかせることができた。このことは、より多くの生徒に学習課題を自分のこととしてとらえさせることができたといえる。そして、日常生活において、他人に与える印象とTPOを考えて衣服を着用することの大切さにつなげることができた。

3. まとめ

(1) 成果

和服を着用することで、洋服にも着方にルールがあること、TPOに応じて衣服を着用することの意義にも気づかせることができた。TPOに応じた衣服をイラストで表現・紹介しあう次時の活動で、自分の衣服を持ち寄る等して取り組む生徒がいたことは、実践への意欲を高めることにつながったといってもよい。

(2) 今後の課題

和服の着装にはある程度の技術が必要で、指導者の知識や指導力が求められる。浴衣の準備にも手間がかかるため、外部講師を招いたり浴衣を提供してもらったりする等、地域との連携も大切になってくる。また、学校規模に合わせて、授業展開を工夫することも必要である。友だちとかかわりをもつことで、生徒は学習内容を獲得しただけではなく、新たな課題意識をもち始めた。着装や話し合いの場面で生徒同士のかかわりがさらに活性化するよう的確な支援や発問の提示に努めたい。日頃の衣生活においても、この学習で学んだことが実践できるような手立てを考え、豊かな衣生活の主体者としての生徒をはぐくんでいけるよう研修をさらに深めていきたい。